



K.Kamite



野田順弘 のだ・まさひろ  
1938年8月24日生まれ。奈良県出身。情報システム事業などを手がける株式会社オービック代表取締役会長。2002年に所有馬を株式会社ダノックスに移して以降、「ダノン」の冠名で多くの競走馬を所有する。10年にはダノンシャンティがNHKマイルCを制し、JRA・G1初制覇。20年にはダノンスマッシュが香港スプリントを制し、海外G1勝利も達成している。本年はダノンデサイルで日本ダービー初制覇を果たした。



M.Yamada

「ダノン」の冠を持った駿馬の活躍は、これからもつづくだろう。  
野田氏の名前を逆にしたことが由来といふところからファンとして競馬を見ていた野田氏は、知り合いに勧められ、夫人の野田みづき氏と共に馬主になつた。G1の優勝経験はあつたが、クラシックは初制覇。先にミッキークリークで15年のオーファスを勝ち、クラシック制覇を果たしてみづき夫人も、この勝利をとても喜んでいたという。

そう振り返った野田氏は、近くにいた関係者によると、ゴール直後は驚いて呆然としたような表情だったが、周囲から祝福されるうちに、喜びと感動を実感した様子だつたといふ。若いころからファンとして競馬を見ていた野田氏は、知り合いに勧められ、夫人の野田みづき氏と共に馬主になつた。G1の優勝経験はあつたが、クラシックは初制覇。先にミッキークリークで15年のオーファスを勝ち、クラシック制覇を果たしてみづき夫人も、この勝利をとても喜んでいたといふ。

教師から詳細な報告を受けて納得した。除外とはいえ、調教で仕上げて中山競馬場まで移動し、パドックを周回してゲート裏まで行ったので、馬にとってレースに出たのに近い経験となり、なかなか高速の皐月賞を走らずに済み、いい勉強になった——という横山騎手の見解も伝えられた。運と、人とのつながりを大切にしてきた野田氏は、安田調教師と横山騎手を信じて、第91回日本ダービーを迎えた。その思いに応え、ダノンデサイルは内から鮮やかに抜け出して優勝した。

「4コーナーを回って、100メートル手前でも脚がしつかりしていたので、あつと思って、いけるな」と

そう実感した様子だつたといふ。若いころからファンとして競馬を見ていた野田氏は、知り合いに勧められ、夫人の野田みづき氏と共に馬主になつた。G1の優勝経験はあつたが、クラシックは初制覇。先にミッキークリークで15年のオーファスを勝ち、クラシック制覇を果たしてみづき夫人も、この勝利をとても喜んでいたといふ。



The 91st  
TOKYO  
YUSHUN

[ダービーオーナーの肖像]

# 野田順弘氏

株式会社ダノックス代表

Masahiro Noda

## ダービー制覇は夢のよう

「ダノン」の冠名で知られる、(株)ダノックスの野田順弘オーナー。記念すべきGIレース10勝目を、念願の「日本ダービー」で飾った。

島田明宏 =文  
text by Akihiro Shimada

馬

主になつたからには、いかは  
ダービーを獲りたい

そう話していた株式会社ダノックスの野田順弘氏は、5回目、6頭の出走で日本ダービー初制覇を果たした。

「夢のようです。馬主を20年ほどやつていますが、こんな感激を受けたのはありませんね。横山典弘騎手、安田翔伍調教師をはじめ厩舎スタッフの方々、そしてこの馬を生産、育成してくれた社台ファームの方々、もうすべての関係者に感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました」

レース後、そう喜びを語った。  
感動を求めて馬主となり、ダービー制覇を夢見て良血馬を集め、ついに頂点に立つた。ここまで道のりは、しかし、平坦ではなかつた。

2010年、NHKマイルCを制したダノンシャンティが所有馬のダービー初参戦になるはずだったが、レース前に骨折が判明し、出走取消。15年、ダービー初参戦となつたダノンメジャーは11着。18年には、2歳王ダノンが所有する千葉の茂原カントリー俱楽部で、当時の安倍晋三首相と、アメリカのドナルド・トランプ大統領がゴルフをした。午前中、安倍・トランプ両氏に応対した野田氏は、その足で東京競馬場に向かつた。この日の第86回日本ダービーにダノンキングリーが出走していたのだ。直線で馬場の真ん中から豪快に伸び、勝ったかと思われたが、内のロジヤーバローズにクビ差及ばず、2着に惜敗。野田氏をはじめとする関係者はがっくりとうなだれた。

22年は、共同通信杯を勝ち、皐月賞で4着だったダノンベルーガが1番人気で出走権を得たダノンエアズロックと、皐月賞で発走直前、跛行のため競走除外となつたダノンデサイルといふ2頭の所有馬を送り出した。野田氏はダノンデサイルの皐月賞除外に関しても、なかなか気持ちの整理がつかなかつたというが、翌週、安田調教師と横山騎手を信じて、第91回日本ダービーを迎えた。その思いに応え、ダノンデサイルは内から鮮やかに抜け出して優勝した。

京競馬場に向かつた。この日の第86回日本ダービーにダノンキングリーが出走していたのだ。直線で馬場の真ん中から豪快に伸び、勝ったかと思われたが、内のロジヤーバローズにクビ差及ばず、2着に惜敗。野田氏をはじめとする関係者はがっくりとうなだれた。22年は、共同通信杯を勝ち、皐月賞で4着だったダノンベルーガが1番人気で出走権を得たダノンエアズロックと、皐月賞で発走直前、跛行のため競走除外となつたダノンデサイルといふ2頭の所有馬を送り出した。野田氏はダノンエアズロックが届きそうで届かなかつた「競馬の祭典」。今年は、プリンシバルSを勝つて出走権を得たダノンエアズロックと、皐月賞で発走直前、跛行のため競走除外となつたダノンデサイルといふ2頭の所有馬を送り出した。

### 「ダノックス」ダービー成績

年度	馬名	騎手	人気	着順
2010	ダノンシャンティ	安藤勝己	出走取消	
2015	ダノンメジャー	小牧太	13	11
2018	ダノンプレミアム	川田将雅	1	6
2019	ダノンキングリー	戸崎圭太	3	2
2022	ダノンベルーガ	川田将雅	1	4
2024	ダノンデサイル	横山典弘	9	①
	ダノンエアズロック	J.モレイラ	5	14